

十小だより



令和7年度7・8月号 No. 630

令和7年6月28日発行

武蔵村山市立第十小学校

校長 今井 一馬

【教育目標】

—くすの木のように優しくたくましく—

- ・やる気いっぱい（自分で考える子）
- ・笑顔いっぱい（自分も友達も大切にする子）
- ・力いっぱい（丈夫でたくましい子）

【<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmced10s/>】

引き算だけでなく 足し算も ～生成 AI の時代における三者面談～

教務主幹 秋吉 健司

本校では昨年度より、通知表の所見記入は3学期のみにし、1学期には三者面談、2学期には個人面談を行うスタイルへと変更しています。これにより、児童の成長について、保護者の皆様と直接お話ししながら確認できる時間を大切にできるようになりました。御多用の中、面談日程の調整や御理解・御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

このような形をとっているのは、私たちが「児童の姿を“引き算”ではなく、“足し算”で見たい」と強く願っているからです。評価というと、「できているか、できていないか」に目が向きがちです。しかし、児童の学びや成長は一人ひとりの歩幅で進むものです。「どこまで伸びたか」「何ができるようになったか」という視点こそが、児童たちに自信を与え、次の挑戦への意欲を育みます。

最近では、教育現場でも「生成 AI」の話題が増えています。AIが答えを簡単に導き出す時代において、私たち人間に求められるのは、自分自身を振り返り、考え、言葉にして他者とつなぐ力です。三者面談はまさに、そうした力を育む貴重な場です。自分の成長を自分で語り、他者と共有することは、これからの学びの基礎にもなります。

今年度の三者面談でも、次の3つのステップを大切に実施します。

① 児童自身のふりかえり（自己評価）

まず、児童が自分の言葉で1学期の成長や頑張ったこと、課題と感じたことを伝えます。自分の歩みを客観的に見つめることは、学びを「自分ごと」として捉える第一歩です。

② 教師からの評価と補足

次に、教師から児童の発表に対して、具体的な成長のエピソードや気づきを伝えます。児童自身が気づいていなかった良さに触れることで、新たな自信を生み出します。

③ 2学期に向けた目標づくり

最後に、児童が次がんばりたいことを話し、それを実現するために、どんなサポートがあるとよいかを三者で話し合います。小さなステップに分けて考えることで、目標への道筋が見えやすくなります。

限られた15分という時間ではありますが、お子様の「これまで」と「これから」をつなぐ意味のある時間にしたいと考えています。どうぞ当日は、保護者の皆様のあたたかいまなざしとともに、お子様の声にしっかりと耳を傾けていただきますよう、よろしくお願いいたします。

